

会 議 録

会議の名称	第2回上尾市多文化共生推進委員会	
開催日時	令和8年2月26日(木) 14:00~16:00	
開催場所	上尾市役所本庁舎7階 大会議室	
議長(委員長・会長)氏名	上尾市多文化共生推進委員会 委員長 岡村 佳代	
出席者(委員)氏名	尾形 昭夫、砂川 真枝、池田 将寛、河田 千栄、吉田 充、水津 暁 維、程 淑媛	
欠席者(委員)氏名	三井田 晴宏、名取 秀幸	
出席者(庁内検討)委員	小林 咲希、金子 阿佐美、加藤 利江、八木 健、浜田 真衣、 青木 彰吾、杉原 慎一	
欠席者(庁内検討)委員	町野 菜月	
事務局(庶務担当)	市民協働推進課長 森田 健司 市民協働推進課副主幹 周 暁蘭 市民協働推進課主事 金井 彩華	
会 議 事 項	1 議 題	2 会 議 結 果
	(1) 開 会 (2) 議 題 ①会議の公開 ②市民アンケート集計結果報告 ③アンケートの集計結果から見えた課題 ④グループワーク(3グループ)と発表 ⑤委員長による講評・アドバイザーによる講評と他 市先進事例紹介 (3) 閉 会	
議事の経過	別紙のとおり	
会議資料	別紙のとおり	
議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。 令和8年3月12日 <div style="text-align: right; margin-top: 20px;"> 委員の署名 <u>池田 将寛</u> </div>		

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局 (森田課長)	<p>【(1) 開 会】</p> <p>それでは、第 2 回上尾市多文化共生推進委員会を開会いたします。次第に沿って、進めさせていただきます。</p> <p>本日の会議は、委員の過半数の方のご出席をいただいておりますので、上尾市多文化共生推進委員会条例第 6 条第 2 項の規定により、有効に成立していることをご報告いたします。</p> <p>なお、本日の委員会では、アドバイザーの田村先生が、遠方におられるため、オンラインでご参加いただいております。田村先生、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
田村先生	<p>よろしくお願いいたします。</p>
事務局 (森田課長)	<p>それでは推進委員会条例第 4 条第 2 項の規定に基づき、今後の進行につきましては、岡村委員長にお願いしたいと存じます。岡村委員長、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
岡村委員長	<p>【(2) 議 題】</p> <p>それでは、議事の進行を務めさせていただきます。</p> <p>議題 1 「会議の公開」について」事務局よりご説明をお願いいたします。</p>
事務局 (周副主幹)	<p>「会議の公開について」説明させていただきます。本委員会につきましては、上尾市「審議会等の会議の公開に関する指針」に従いまして、公開することとなります。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
岡村委員長	<p>それでは事務局に確認いたします。本日傍聴を希望される方はいらっしゃいますか。</p>
事務局 (周副主幹)	<p>本日は、1 人の方から傍聴の申出がございます。委員長の許可をお願いいたします。</p>
岡村委員長	<p>はい。傍聴を許可いたします。ご案内をお願いします。</p>
池田委員	<p>傍聴者の皆様に申し上げます。傍聴にあたっての注意事項が、傍聴券の裏面に記載しておりますので、お読みいただき、会議の進行にご協力をいただきますようお願い申し上げます。</p> <p>それでは、議題に従いまして、会議を進めます。</p> <p>議事の正確性を証するため、議事録に署名をお願いしたいと考えております。議事録署名人につきましては、出席委員の中から 1 名を、委員長の私から指名させていただきますと思います。今日ご出席の池田委員にお願いいたします。</p>
池田委員	<p>はい。</p>
岡村委員長	<p>それでは、議題 2 「市民アンケート集計結果報告について」事務局から説明をお願いいたします。</p>

事務局
(金井主事)

昨年実施した 日本人市民及び外国人市民アンケートの結果を報告いたします。

計画策定を目的とした本アンケートは、昨年11月7日から28日にかけて日本人市民500名、外国人市民1,000名を無作為抽出し、実施しました。

有効回収率は、日本人市民44%、外国人市民21.7%、全体としては、約30%となりました。

本日は、お時間に限りがございますことから、アンケート結果の一部をスライドに提示いたします。結果の全容につきましては、事前にメール等でお送りしておりますアンケート結果の冊子をご覧ください。

スライドの見方ですが、日本人市民アンケートは、ピンクの囲みで、外国人市民アンケートは紫の囲みで、それぞれその横に該当する設問番号を記載しております。

では、まず、「ことば」についてです。

画面左・日本人市民の結果では、これまでの会話経験として、約半数の方が「日本語のみ」と回答しているのに対し、画面右・外国人市民の結果では、日常的に最も使う言語として「日本語」を回答した方が約6割となりました。

この「日本語」についてですが、上尾市でも普及に努めている「やさしい日本語」について、日本人市民向けのアンケートで「今後のコミュニケーション手段としての活用」を聞いたところ、活用に前向きな回答をした方が、回答者全体の約7割となりました。

また、外国人市民を対象とした日本語学習に関する問いでは、画面左の「今後力を入れたい学習」として、多い順に「日常会話」「漢字の読み書き」「進学・就職に向けた勉強」「日本語検定の勉強」となり、より実践的な学習を求めていることが分かりました。

画面右の「希望の学習方法」では、全ての項目（対面とオンライン、レベル別集団授業とマンツーマン授業）で、ほぼ同じ割合の結果となりました。

スライドには出ておりませんが、現在の学習方法について聞いたところ、オンラインや参考書を使って勉強していると回答した方が多い結果となりました。

続いて、日常生活での困りごとについてです。ここでも、言葉に関する項目を答えた方が多い結果となりました。

さらに、画面左「トラブルや困った経験の原因」としても「言葉の壁」を上げていた外国人回答者が最多となりました。

これらのことから、外国人市民に対しては日本語教育、日本人市民に対しては、やさしい日本語の普及がより一層求められていることがうかがえます。

また、今回18歳未満の子どもに「学校生活等での困りごと」を聞いたところ、「特にない」と回答した方が最多とはなりましたが、一方で「母語を話せる場所がない」「友達とのつきあい」と回答している方も一定数いらっしゃいました。

次に「地域交流」についてです。日ごろの交流手段として、(日本人回答者・外国人回答者)ともに「挨拶等のご近所づきあい」と回答している方が多い傾向にございました。

一方、普段交流がない日本人回答者と外国人回答者全員に、「互いの交流機会があった場合に参加するか」と聞いたところ、外国人回答者の半数以上は、「参加したい」と回答しておりましたが、日本人回答者は半数以上が否定的な考えであることが分かりました。

日ごろの交流機会を増やしていく点も課題であると認識できます。

続いて、「防災」についてです。「避難場所・避難所の認知度」では、日本人回

<p>事務局 (金井主事)</p>	<p>答者の7割以上が「知っている」と回答したのに対し、外国人回答者はおおよそ半数にとどまりました。</p> <p>また、「防災ガイドブック、水害ハザードマップの認知度」でも、日本人回答者は、内容の確認はしていない方が多いものの、ほとんどどの人が認識しているのに対し、外国人回答者は、半数以上が「知らない」と答えておりました。</p> <p>しかし、「多言語版の防災ガイドブック、水害ハザードマップの認知度」では、外国人回答者の方が、日本人回答者よりも認識しており、情報を多言語で届けることへのニーズの高さがうかがえました。</p> <p>最後に「多文化共生のまちづくり」についてです。</p> <p>「暮らしやすいまちになるために、互いに求めること」を聞いたところ、日本人回答者は、生活ルールやマナー等を気にする回答が多くありました。</p> <p>一方、外国人市民は、互いの文化慣習を知る機会やイベントに（日本人市民と）一緒に参加したいと回答している傾向にありました。</p> <p>この「イベントへの参加」については、日本人市民はあまり重要視していないことから、この意識の差を埋めていくことも今後の地域交流における課題として挙げられます。</p> <p>また、「多文化共生を推進するにあたり、市に求めることは何か」という問いでは、（日本人・外国人回答者）ともに「多言語による情報発信」が上位にランクインした一方、ゴミ出しや生活のルールについては、日本人回答者は重要視しているものの、外国人回答者はそこまで重要視していないことが分かりました。</p> <p>双方にとって暮らしやすいまちとなるよう、これらのアンケート結果をもとに、皆様と「第3次上尾市多文化共生推進計画」を策定していければと考えております。以上です。</p>
<p>岡村委員長</p>	<p>ありがとうございます。ただいまの事務局の説明に対して、ご質問等はございますか。よろしいでしょうか。</p> <p>続きまして、議題3「アンケートの集計結果から見えた課題について」事務局より説明をお願いします。</p>
<p>事務局 (周副主幹)</p>	<p>先ほど、アンケートの集計結果についてご報告させていただきました。今回の外国人市民を対象としたアンケートは、5年前と比較して、外国人市民の実態や市に対する具体的な要望をより深く把握することを目的としていました。</p> <p>そのため、「市の取り組みに対する認知度」等、これまでのアンケートでは取り扱わなかった新しい質問を盛り込んでおり、質問数が多く感じられた方もいらっしゃるようです。回収率がやや低下した一因でもあると考えられます。</p> <p>一方、日本人市民を対象としたアンケートについては、実施時期が参議院選挙直後であったこともあり、多文化共生に関心を持つ方が多かったことから、回収率の高さにつながったのではないかと考えられます。</p> <p>続きまして、今回の市民アンケートの集計結果から、以下の3つの課題が浮き彫りとなりました。</p> <p>1つ目は、「情報の周知不足」です。これは、市が実施した事業に対して、「事業があることを知らなかった」と回答した方が多いということです。</p> <p>2つ目は、「ニーズに対応する事業の不足」です。これは、市民の要望に応じた事業が十分に整備されていないということです。</p> <p>3つ目は「既存事業の改善の余地」です。これまでに実施されている事業について、より効果的・適切な形に改善できる余地があるのではないかと考えています。</p>

事務局
(周副主幹)

まず、課題の1つ目の「周知不足」についてですが、ここで挙げているのは、「知らない」と回答した割合が5割を超えた事業です。

「外国人市民向け生活オリエンテーション動画」や「外国人市民向け SNS」については、令和6年度後半から今年度にかけて実施した新規事業であり、「知らなかった」と回答する方が多かったことは、予想の範囲内と考えております。

一方で、「外国人市民のための相談窓口・ハローコーナー」、「ハローコーナーニュース」、及び「上尾市国際交流協会」については、(長年存在しているものの)認知度が低く、特に「知らなかった」と回答した方が8割弱に達しておりました。

「ハローコーナー」につきましては、対面相談で行っており、対応可能な言語は英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語に限られているため、利用者が限定されている可能性があると考えられます。

また、「上尾市国際交流協会(以下、AGA)に関する認知度」については、「外国人市民アンケート集計結果の5ページをご覧ください。問7におけるグラフより、にほんご教室やあげおワールドフェア等の事業の認知度は高いものの、それらの事業の主催がAGAであることを知らなかった方が多いものと推測されます。

そのほか、「119番通報等における電話通訳」、「防災ガイドブック・水害ハザードマップ」については、日常生活で利用頻度が少ないため、認知度が低いと考えられます。

「ごみ収集アプリ・さんあーる」については、後ほど詳細をお話いたしますが、「ごみの出し方や分け方でわからないことはない」と回答した方が7割以上であったことから、利用ニーズが低く、その結果、認知度も低いものと考えられます。

また、自治会や災害に関する認知度に関する問いでも(知っている方等)は5割に満たない状況ですが、今後は多様な手法を模索しながら、周知活動に力を入れていきたいと考えております。

次に、課題の2つ目の「ニーズに対応する事業の不足」についてですが、「外国人市民アンケート集計結果」の6ページにある「就労支援について求めるもの」では、「仕事探しの情報提供や紹介」、「外国人向け就職セミナーの開催」、「職業訓練やスキルアップ講座の提供」、「就労ビザや労働条件に関するサポート」等の回答が多い傾向にありました。

これらが重要視される背景には、現在、上尾市に暮らしている外国人市民の多くが永住者で、今回のアンケートの回答者も永住者の割合が高いことが考えられます。

そして、これらの方々が今後、日本に長期滞在することを考慮すると、安定した職業に就くことが生活基盤の安定や地域社会への貢献につながる最優先事項であると分析できます。

続きまして、「日本語学習」についてです。現在、上尾市内には3つの日本語教室がございます。そのうち2つは、AGAが主催する教室で、もう1つは原市公民館で実施している教室です。いずれの教室も、ボランティアによるマンツーマン形式での学習を行っており、主に生活に関する日本語学習が中心となっております。

ただし、外国人市民アンケートでニーズの高かった「進学や就職」「日本語検定受験」を扱う教室は、現在のところ設置されておられません。

また、学習方法につきましては、オンライン授業、レベル別の集団授業を56%の外国人回答者が希望しておりますが、既設の日本語教室では、指導ボランティアの高齢化や人手不足により、いずれも対応していない状況です。

「災害」につきましては、左側の「外国人向けアンケート」では「避難所での生活に必要な情報を知りたい」という声がある一方、右側の「日本人向けアンケ

事務局
(周副主幹)

ート」では「多言語による避難所ルールの周知が必要」とする意見がございました。日本人と外国人の双方から、災害時の避難生活に関する情報提供が求められていることが分かります。

上尾市では、毎年、日本人ボランティア向けに、災害時外国人市民への支援に関する講座や、災害時多言語支援センター運営訓練を実施しております。一昨年には、日本語教室の受講者を対象に、家具の転倒防止や火災時の消火方法等、基本的な防災知識を学ぶ講座を開催した実績があります。

しかし、「避難所での生活」や「避難生活」に特化した情報提供が不足していることが、今回のアンケート調査では明らかになりました。

続きまして、「外国人市民アンケート集計結果」の 27 ページにある「ともに暮らしやすいまちになるために、日本人市民に求めることは何ですか」という問いでは、「日本の文化や伝統を教えてほしい」という回答が最も多く挙げられました。また、「地域のイベントや行事に誘ってほしい」という意見も多く寄せられています。この結果から、外国人市民の方々が日本の文化を積極的に知ろうとしている姿勢が伺えます。また、「母国の文化や習慣を知ってほしい」という声も多く寄せられました。

次に、お配りしております「自治会アンケート集計結果」をご覧ください。自治会を対象としたアンケートにおいて「外国人市民に期待する役割」という問いでは、「異文化交流のきっかけを期待する」、「多文化の橋渡し」等の回答がございました。

今後は、地域における多文化交流の活動をさらに広げていくことが必要であり、また、多文化共生の担い手の育成にもつながると感じております。

続いて、課題の 3 つ目の「改善の余地」についてですが、左側のグラフは「生活に必要な情報の入手方法」について示しており、多くの外国人回答者が「インターネット」や「SNS」を選んでいることが分かります。そのため、市ホームページの内容をさらに充実させることや、LINE、Facebook、X 等の SNS を利用した情報の周知を、より一層強化していきたいと考えております。

一方、右側のグラフでは「生活に必要な情報」に関する内容が示されています。上尾市に居住する外国人市民の在留資格において「永住者」が最も多いことから、「税金や年金」、「医療や保険」といった長期滞在者向けの情報提供が重要であると考えられます。これらの情報を分かりやすく発信し、外国人市民の生活をより支援していく取り組みを進めていきたいと思っております。

続きまして、「ごみの出し方や分け方についてわからないことはあるか」という問いについてです。

市民協働推課では、今月 8 日に、「ごみの分別方法」をテーマとした「外国人市民向け生活オリエンテーション」を実施しました。様々な周知方法を活用しましたが、申込をされた方はあまりおりませんでした。

この要因として、外国人回答者の約 7 割の方は、「(ゴミの出し方や分別について) わからないことはない」と回答していることが関係していると考えられます。

また、上尾市の外国人市民は、「永住者」の在留資格を持っている方が多く、本アンケートの回答者の中でも「永住者」の割合が高いため、「燃えるごみ」や「燃えないごみ」を曜日ごとに分けて出す方法を理解しているのではないかと思います。

ただし、ゴミの分け方については、日本人市民でも迷うことがあるため、外国人市民にとっても課題が残されている可能性はあるかと思っておりますが、今回の結果より、ゴミの出し方そのものに対するニーズはそれほど高くないと推察され

事務局
(周副主幹)

ます。
今後、「ゴミの出し方や分け方」に関する情報提供につきましては、来日して間もない外国人を対象に絞り込むことが重要であると考えています。
さらに、情報提供にあたっては、外国人市民の視点に立った内容や方法を工夫する必要があります。具体的なニーズを的確に把握し、それを踏まえた施策を展開していきたいと考えております。
続いて、日本人市民アンケートについてです。
先ほど、アンケートの集計結果報告でもお伝えしましたが、日本人市民が共生において感じている主な課題として「言葉が伝わらないこと」がございました。
一方で、外国人市民が「現在困っていること」として、最も多く挙げているのは「日本語・言語の問題」でした。また、参考資料「自治会アンケート集計結果」からも、多くの自治会における共通課題は、「言葉の壁」であることが明らかになっています。
さらに、スライドでは、半数以上の方が、地域の交流に外国人市民が参加することを好ましいと思っているものの、自分自身が積極的に参加すると答えた方は半分以下となっております。その要因の一つとしても「言葉の壁」があるのではないかと考えられます。
一方で、外国人市民のアンケート結果からは、約6割の方が日常で最も使用する言語に「日本語」を選んでいることから、外国人とのコミュニケーションには日本語が有効であることが示唆されています。
これらの結果を踏まえ、今後は「日本語教育」と「やさしい日本語」の普及により一層力を入れ、多文化共生の地域づくりをさらに進めていければと考えております。
また、日本人市民と外国人市民双方を対象に「ともに暮らしやすくなるために市に求めること」を聞いたところ、半分以上の回答者が「多言語による情報発信」と回答しています。
今後、ICT技術を積極的に活用し、多様なツールを通じて効果的な情報発信を行いたいと考えております。

最後のスライドは、前回の委員会でもご提示しました「第3次上尾市多文化共生推進計画」の施策案となります。
本日お話しした様々な課題を踏まえ、今後取り入れるべき事業や、改善が必要な取り組み等につきまして、後ほど実施するグループワークでご検討いただきたいと思っております。以上が、アンケートの集計結果から見えた課題の内容です。

岡村委員長

ありがとうございます。ただいま事務局の説明に対して、ご質問等はございますか。よろしいでしょうか。
では、続きまして、議題4「グループワークと発表について」事務局より説明をお願いします。

事務局
(周副主幹)

先ほどのアンケート結果を踏まえまして、「これから多文化共生の推進に取り組むべきこと」をテーマとして、「新しい提案、アイデア」、「課題を解決する方法等」についてグループで話し合ってくださいと思います。
進め方としましては、自己紹介をしながら、これまでの外国人市民との関わりや窓口での対応経験等を話したうえで、先ほどのテーマについて、新しい提案やアイデア等を話し合ってください。
内容がまとまりましたら、模造紙に記入し、代表の方1名に発表していただきます。
また、追加資料についてご説明いたします。「上尾市外国人の人口推移」をご覧ください。上尾市における外国人市民は、令和7年4月時点で5,607名だ

<p>事務局 (周副主幹)</p>	<p>ったのに対し、現在は、6,409名となっております。つまり、ひと月に約90～100人ペースで外国人市民が増えている状況です。</p> <p>また、国籍別人口では、令和7年4月からわずか8カ月で順位の変動があり、東南アジアの方々が増えている傾向にあります。これらの方は、特定技能として来日しており、今後も増えることが予想されています。</p> <p>グループワークでこちらの資料もご活用ください。</p> <p>【グループワーク（50分）】</p>
<p>岡村委員長</p>	<p>時間となりましたので、各グループから発表をしていただきます。それでは、Aグループお願いいたします。</p>
<p>砂川委員</p>	<p>Aグループでは、新しい提案・アイデアとして次の内容を検討しました。</p> <p>まず、日本語を学びたいけれど、機会や場所を得られない方のためにYouTube等の動画配信をすることです。言葉が伝わらないという課題に対し、映像で解決できるのではないかと思います。</p> <p>また、外国人と日本人との交流場所という課題に対して、公園や駅を活用した朝市やマルシェを考えました。また、身ぶりや手ぶりで関わることで、顔見知りになることが有効であると考えました。</p> <p>さらに、集団生活者へのフォローとして情報の届け方について考えました。SNSだけでなく、妊娠や転入等の各種届出をする機会を活用するほか、ラジオや回覧板を利用するという意見も出ました。</p> <p>ただし、回覧板は、自治会加入者に限るため、地域掲示板を現代版にし、ふと歩いていて見たくなる掲示板づくりを提案したいと思います。お金がなくて日本語学校にいけない方や、自治会未加入者への情報発信にも有効ではないかと考えられます。</p> <p>また、より多くの商業施設への協賛やタレントの起用も1つの方法ではないかという意見が出ました。グループは女性だけで構成されていたため、男性目線の意見があればぜひお願いします。</p>
<p>岡村委員長</p>	<p>Aグループの皆様ありがとうございます。では、続きまして、Bグループの発表をお願いいたします。</p>
<p>青木委員</p>	<p>Bグループでは、自己紹介をしながら、外国人市民に対する意見交換をしました。情報発信、地域交流、教育について検討しましたが、情報発信に注目して意見をまとめました。</p> <p>今回のアンケート結果により、外国人市民が求める情報が把握できたことから、ニーズに関する周知原稿の作成を各課に依頼し、市民協働推進課（ハローコーナー）SNSで発信していくことで、不安を取り除いていくのはどうかという意見が出ました。</p> <p>また、アッピーや県のキャラクターを活用したアニメーション動画を作り、発信することで、気軽に外国人市民も情報に触れることができるのではないかと考えました。</p>
<p>岡村委員長</p>	<p>Bグループの皆様ありがとうございます。では、続きまして、Cグループの発表をお願いいたします。</p>
<p>杉原委員</p>	<p>Cグループでは、課題に対してのアプローチについて話し合いをしました。</p>

杉原委員

まず、周知についてですが、SNS や動画の活用はもちろんのこと、コミュニティーの核にいる方に届くとより良いのではないかと考えました。

さらに、それらの周知内容を目にする機会を増やすことも大切ではないかと考え、市役所や学校、病院等の立ち寄る場面で周知することも有効ではないかという意見が出ました。

また、市役所では、市のフリーWi-Fiを活用した周知もできると良いのではないかと考えました。

次に、言語交流については、互いの言語を学びたい者同士が学べる場があると良いという意見が出ました。そうすることで関心の高い方を集めて、日本語指導者も増やせるのではないかと思います。

最後に、あげおワールドフェアを上尾シティハーフマラソンを超えるような大きなイベントにするという意見が出ました。

3F（フード、ファッション、フェスティバル）を活用することで、多くの方が集まって、「楽しかった」という記憶が残るため、交流の入り口として有効ではないかと考えました。

また、そこから口コミが広がる効果も見込めるのではないかと思います。

岡村委員長

Cグループの皆様ありがとうございます。

どのグループも「情報発信」について発表していただきました。アンケートの中で「特に困っていない」と答えた割合が多かったという分析がありましたが、「横のつながり」から情報を入手しているという可能性もあるかと思います。「なぜ困っていないのか」という部分を探りながら、横のつながりを活用していくことが有効ではないかと思います。

また、情報発信については、世代ごとの活用ツールが異なる可能性があるため、世代ごとに反応してもらえるツールを複数用意することが大切であると思います。

さらに、その時々々の必要とする情報や不安に思う時が、情報収集したいという意欲があるタイミングでもあるため、そこにアプローチすることが大事であると思います。

私からは以上ですが、田村先生はいかがでしょう。

田村先生

私からは、今の発表を踏まえて、他の地域の事例をご紹介します。

まず、パキスタン人が多く居住している、富山県・射水市では、子ども向けの学習支援を行っており、一緒に付き添いで来る保護者向けの相談会も実施しています。

子供が来た時に保護者の方にもアプローチをする等、複合的な取り組みがあると良いのではないかと思います。

また、公民館等の地域の核となる施設に集まれる場があると良いのではないかと思います。

沖縄県の若狭公民館には、ネパールの方が多く来ており、いろいろな人と接点を持つことが大切であると思います。

また、新潟県では、日本独自の文化である運動会を一緒に実施しており、国籍を超えて1日を通して顔を見る関係が作れる点では面白いと思います。

さらに、島根県では、地域住民と外国人市民と一緒に地域を歩きながら、ともに課題を発見し、ハザードマップを作成する取り組みを行っております。

「外国人のために何かする」というよりも、「地域課題をみんなで考える機会」とあると良いと思います。

商店街のケースでは、博多市にて、商店街とその近くにあるお寺の協力のもと、ミャンマーから仏像を運んできて、ミャンマーの方が集まれる場所を作っている事例もあります。

特定の宗教と関わることは難しいと思いますが、近年、東南アジアの方も増え

田村先生	<p>ていることから、商店街やお寺と連携することも有効かと思えます。</p> <p>また、Adobe 社では、Adobe Express という新しいアプリを作っており、ボタン1つで複数言語に翻訳をできる機能があります。</p> <p>以前、商店街の方を対象にお店のチラシを作成し、この機能を体験してもらったところ、年配の商店主の方も参加されていました。簡単にできるため、メニューの多言語化をしようかとおっしゃっていました。</p> <p>また、地域で中国語の教室をしている商店主の方からは、中国語を日本語に訳してみようかという声をいただきました。</p> <p>前回の会議でも、大阪では、外国人の方が自分の特技を披露できるプラットフォームを作っているとお伝えしましたが、それを見た方から「うちに来てください」という誘いや「学校の国際理解の授業で披露してください」といった直接的なつながりに発展しているケースもあります。</p> <p>外国人住民の方が、自分たちのできることを発信してくような場があると良いと思えます。必ずしも支援が必要という見方ではなく、地域の担い手として活躍できるような機会を設けてると良いと思いました。私からは以上です。</p>
岡村委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ハザードマップを一緒に作るということに関して、大学でも偏見や差別について、「共通の目的を持つこと」、「平等な立場」、「制度的な支援」、「親密さ・機会」の4つの条件が揃うとこれらの低減につながるという議論をし、学内で実行しようとしています。</p> <p>その点で、一緒にハザードマップを作ることは、非常に素晴らしい取り組みであると思いました。</p> <p>田村先生どうもありがとうございました。</p> <p>以上で本日の議題はすべて終了となります。皆様から質問等はよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、進行を事務局にお返しいたします。</p>
事務局 (周副主幹)	<p>皆様、田村先生に質問がございましたら、ぜひお願いいたします。</p> <p>特にないようですので、市民協働推進課長の森田よりご挨拶いたします。</p>
事務局 (森田課長)	<p>長い時間、どうもありがとうございました。田村先生もどうもありがとうございました。議事は以上で終了となりますが、私も近所や街中を歩いていて、外国の方とすれ違うことが多いという印象を受けています。</p> <p>先ほど事務局からの説明でもありましたが、上尾市は、月に約100人、年間1,000人以上のペースで外国人市民が増えていることがお分かりいただけたと思います。</p> <p>そのような中、「第3次上尾市多文化共生推進計画」の策定に向けて皆様に様々なアイデアを出していただいているところでございますので、身の回りの身近な課題として、今後1年間かけて計画策定にご協力をいただければと思います。どうぞよろしくをお願いいたします。</p>
事務局 (周副主幹)	<p>最後に、尾形副委員長から閉会のご挨拶を賜りたいと思えます。</p>
尾形副委員長	<p>【(3) 閉 会】</p> <p>皆様お疲れ様でした。</p> <p>本日は、交流しながら感想を言い合ったり、意見を出し合ったりして、本来的な交流とはこういうものなのだと改めて感じました。</p>

事務局 (周副主幹)	<p>今回のアンケートの(外国人市民)回答者が21%ほどとありましたが、残りの約8割の方は回答していないということでもあります。</p> <p>8割の中にも、労働の問題や住まいの問題等いろいろな考えや現実的な課題があるのではないかという想像力をもって、これからも委員会の中で様々な議論ができれば良いと思っています。</p> <p>また、今、子供たち同士も面と向き合ってけんかをせず、一度こじれてしまうと人間関係が固定化されてしまうような危機感があります。</p> <p>私たちはオープンマインドで色々な形で自己主張しながら、相手の考えも聞いていくという交流が必要であると思います。</p> <p>今日は皆様お疲れ様でした。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>最後になりますが、本日「第3次上尾市多文化共生推進計画の策定スケジュール」を配布しております。</p> <p>今年度の会議は最後となりますが、来年度は、4月21日、6月30日、9月4日の開催を予定しております。</p> <p>また11月19日につきましては、計画の素案を提示したいと考えております。</p> <p>さらに、11月末から12月末にかけてパブリックコメントを実施する予定となっております。来年の1月8日には、パブリックコメントの内容を踏まえた計画案を提示したいと考えております。そして、令和9年2月12日に計画の報告をする予定です。</p> <p>引き続きどうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局 (森田課長)	<p>以上で解散となります。どうもありがとうございました。</p>